防衛研究所 National Institute for Defense Studies
NIDSコメンタリー
第 379 号　2025 年 6 月 6 日

テクノクラートと軍人

――ロシア大統領官邸人事

地域研究部米欧ロシア研究室主任研究官　長谷川　雄之

ショイグー安保会議書記を支える若きテクノクラート

2025 年 5 月 9 日に赤の広場で行われた対独戦勝 80 周年記念の軍事パレードでは、アンドレイ・ベロウーソフ国防相がスーツ姿で式典に臨んだ。2012 年 11 月、国防相がアナトーリ・セルジュコーフからセルゲイ・ショイグーに交代したことを契機として、2013 年以降 10 年以上にわたり、対独戦勝記念日の軍事パレードでは、ショイグー国防相の制服姿が定着していたから、今般のベロウーソフ国防相のスーツ姿は、文官、研究職出身の国防相の誕生を改めて内外に強く印象付けるとともに、ロシア・ウクライナ戦争下のプーチン政権における「テクノクラート」勢力の存在感が示された。

およそ 1 年前の 2024 年 5 月 9 日、小雪の舞う赤の広場に制服姿で登場したショイグー国防相は、そのわずか数日後にニコライ・パートルシェフの後任として、安全保障書記に配置転換となった。パートルシェフが大統領補佐官に就任すると、彼を支えるべく、地方知事、地域発展次官などを経験したセルゲイ・ヴァフルコーフ安保会議副書記が大統領府内部部局に局長として異動した[1]。これにより、ショイグー安保会議書記を補佐する副書記の体制は、連邦保安庁（FSB）出身の元内相、ラシード・ヌルガリーエフ安保会議第 1 副書記、FSB 出身のオレグ・フラーモフ副書記、内務省出身のユーリ・コーコフ、ロシア軍（軍検察）出身のアレクサンドル・グレビョーンキン、同じく軍出身で軍事アカデミー前総裁のグリゴーリ・モルチャーノフ副書記[2]、外務省出身のアレクサンドル・ヴェネディークトフ副書記、外務省勤務経験はあるが銀行勤務の長いアレクセイ・シェフツォーフ副書記の 7 名体制となり、FSB、内務・外務・軍出身者のみから構成されることとなった。

また 2 名減となった安保会議書記補佐官のポストには、すぐさま国防省からアレクサンドル・ブラチョーナク国防大臣補佐官と国防省サイバー担当のパーヴェル・カナヴァーリチクの 2 名が送られ[3]、ヴァフルコーフ副書記の後任人事を除いて、ショイグー書記を補佐する体制が一応は整えられた。

ショイグー安保会議書記は、2024 年 9 月と 2025 年 3 月の北朝鮮訪問、2024 年 10 月のアラブ首長国連邦訪問、さらに 2025 年 2 月のインドネシア、マレーシア、中国歴訪など安保会議主導の外交活動を積極的に展開しており[4]、パートルシェフからショイグーに安保会議書記が交代しても、その活動量が低下しているわけではない。

こうした中、2025 年 3 月 26 日には、ショイグー書記の補佐体制を強化する人事発令があり、副書記は第 1 副書記を含めて 8 名から構成されることとなった。新たに安保会議副書記に着任したアレクサンドル・マースレニコフは、1982 年 6 月 12 日リャザン市生まれの 42 歳で、2005 年に高等経済学院マネジメント学部（専攻：組織管理）を卒業している。在学中の 2003 年には AIG-Brunswick Capital Management においてインターンを経験し、2004 年に経済発展・通商省（当時）に入省した。2008 年まで地方発展局勤務、2008 年から 2012 年まで経済発展省経済部門発展局伝統セクター・市場部次長、部長を経験し、2012 年から 2014 年まで同省経済部門発展局次長、2014 年から 2018 年まで同局長を務めた。その間、2011 年に連邦政府附属国民経済アカデミー法人経営高等学院、2012 年にジュネーブ国際・開発研究大学院（専攻：WTO と工業製品の市場アクセス規制）をそれぞれ修了している[5]。2018 年から 2025 年までロシアの主要大学・研究所とともにベンチャー・イノベーションとハイテク技術の商用化に取り組み、2019 年からは全ロシア社会団体「ロシア・ビジネス」総評議会委員を務めている[6]。経済官庁出身のテクノクラートが安保会議に新たに進出し、ショイグー体制を支えることとなった。

サリュコーフ安保会議副書記（前ロシア陸軍総司令官）の人事発令

さらに対独戦勝記念日の翌週 5 月 15 日には、オレグ・サリュコーフ陸軍総司令官が安保会議副書記に配置転換となった[7]。2014 年から 11 年にわたり赤の広場における軍事パレードを指揮してきたため、とくに知名度の高いロシア軍の最高幹部である。

2012 年 5 月に発足した第 3 期プーチン政権以降、ロシア軍出身の安保会議副書記として、ユーリ・アヴェリヤーノフ（2012 年～2023 年、うち 2013 年からは第 1 副書記）、ミハイル・パポーフ（2013 年～2024 年）、現職ではグレビョーンキン、モルチャーノフの名前が挙げられる。現職者のうちグレビョーンキンは、軍検察の出身で、1993 年以降、つまりソ連邦解体後早い段階から安保会議事務機構に勤務しているから、部隊指揮などを担ってきた軍人と言うよりも、安保会議による軍監察、軍の管理・運営に携わってきたクレムリンの国家官僚と言えよう。一方のモルチャーノフの経歴の詳細は公表され

ていない。1973 年から 2024 年までロシア軍に勤務し、国防省軍事アカデミーで総裁を務めた歴史学博士、軍事学の Ph.D.保有者で助教授資格を有する者である[8]。

今般、安保会議副書記に任命されたサリュコーフは、陸軍総司令官にまで登り詰めた人物で、彼の安保会議事務機構における役割が注目される。軍最高幹部の安保会議副書記への配置転換と言えば、ユーリ・バルエーフスキの人事が有名である。

2004 年から 2008 年まで参謀総長を務めたバルエーフスキは、参謀総長退任と同時に安保会議副書記に任命され、2012 年 1 月に副書記を退くまで「国家安全保障戦略」や「軍事ドクトリン」の策定に携わった[9]。サリュコーフが次期「軍事ドクトリン」の策定など、軍事安全保障政策の影響を及ぼすのか、または全く別の役割を担うのか、彼の動向が注目される。

マースレニコフ副書記は、まさに経済系の若き国家官僚、テクノクラートである。ベロウーソフ国防相人事に象徴されるテクノクラートを重用する人事政策は、国家安全保障政策の企画立案、総合調整、監督を担う安保会議事務機構の幹部人事においても観察される。同時に、サリュコーフ陸軍総司令官の安保会議副書記への配置転換も「高級軍人」の大統領官邸入りという点で極めて重要な人事である。これらがウクライナ戦争という特殊な状況下における人事傾向として位置づけられるのか、軍人とテクノクラートの影響力の変化や両者の関係性を含めて、更なる検討を要する。

[1] 大統領府及び安全保障会議の制度・人事に関する基本事項については、次の文献を参照。長谷川雄之『ロシア大統領権力の制度分析』慶應義塾大学出版会、2025 年。

[2] *Коммерсантъ*, от 11 июня 2024г., «Заместителем Шойгу в Совбезе стал экс-начальник академии Минобороны Молчанов».

[3] *Независимая газета*, от 23 июля 2024г., «На время СВО президент отменил аппаратную возню: Запущенная в мае кадровая рокировка в Совбезе РФ и Минобороны завершилась к концу июля»; Указ Президента РФ от 22 июля 2024г., № 618, «О Бураченке А.Е.», *Собрание законодательства Российской Федерации (далее- СЗРФ), 29 июля 2024г., № 31, ст. 4634*; Указ Президента РФ от 22 июля 2024г., № 617, «О помощнике Секретаря Совета Безопасности Российской Федерации», *СЗРФ, 29 июля 2024г., № 31, ст. 4633*.

[4] Совбез РФ, http://www.scrf.gov.ru/news/allnews/

[5] Эксперт РА, https://raexpert.ru/database/person/maslennikov_aleksandr_vladimirovich/

[6] Совбез РФ, http://www.scrf.gov.ru/about/leadership/MaslennikovAV/

[7] Указ Президента Российской Федерации от 15 мая 2025г., № 321, «О заместителе Секретаря Совета Безопасности Российской Федерации», http://publication.pravo.gov.ru/document/0001202505150048

[8] Взгляд, от 11 июня 2024г., «Экс-глава Военной академии МО Молчанов назначен замсекретаря СБ России», https://vz.ru/news/2024/6/11/1272643.html

[9] 小泉悠『軍事大国ロシア――新たな世界戦略と行動原理』作品社、2016 年、156 頁。

PROFILE

長谷川　雄之

地域研究部米欧ロシア研究室主任研究官

専門分野：ロシア地域研究，現代ロシア政治・外交

本欄における見解は、防衛研究所を代表するものではありません。
NIDS コメンタリーに関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。
ただし記事の無断転載・複製はお断りします。

防衛研究所企画部企画調整課

直　通 : 03-3260-3011
代　表 : 03-3268-3111（内線 29177）
防衛研究所 Web サイト：www.nids.mod.go.jp